

第19期 株主通信

IR REPORT

2011年8月1日～2012年7月31日まで

CONTENTS

What's CCS	1
株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
特集：自然光LED	5
連結決算の状況	7
連結財務諸表(要約)	8
トピックス	9
会社概要	10

シーシーエス株式会社

証券コード：6669

What's CCS

シーシーエスの拡大戦略



リチウムイオン電池 半導体・電子部品 太陽電池



自動車 包装・食品・薬品

マシンビジョン照明

シーシーエスは、マシンビジョンLED照明におけるリーディングカンパニーとして、独自のコアテクノロジーにもとづき開発したバリエーション豊かな照明ラインアップとライティング・ソリューション*を提供しています。

*ライティング・ソリューション=光の照射範囲、照射角度、照射波長など、さまざまな要素を組み合わせた光の当て方の総合的なノウハウをいいます。

新規FA照明

目視・顕微鏡分野では、消費電力などの効率性に加え、作業者の立場に立って光の明るさや質も追求しています。また、UV(紫外)照射器等は、検査工程だけでなく製造工程でも活用されています。

マシンビジョン照明とは

さまざまな製品の製造ラインで画像処理技術が活用されていますが、撮像対象物に応じて光の調整が必要となることから、LED照明がこの画像処理における成功のカギを握っています。人間の目では判別が難しい微細で複雑な工業用製品をはじめ、飲料ボトルや食品パッケージなど、その用途は、広がっています。最近では太陽電池やリチウムイオン電池、液晶パネルや高機能フィルムの検査にも、多く使われています。

工業用照明分野



集光技術

放熱技術

LED
コア
テクノロジー

製造技術

LED
デバイス
技術

シーシーエスは1993年に京都にて創立以来、工業用LED照明メーカーとして成長してまいりました。工業用途で培ったノウハウや技術を強みに新しい事業分野へも展開しています。また、北米、アジア、ヨーロッパへと海外へも事業を展開しています。

新規事業分野

美術館・博物館用照明

世界最高水準の演色性*をもつ「自然光LED」を強みに、美術館・博物館に最適な照明を提供しています。

*演色性=一般的に演色性の高い光源とは、対象物の色合いを変えることなく照らし出すものをいいます。



メディカル用照明

内視鏡用など診断機器をはじめ、治療に必要な光の応用方法を研究・開発しています。



アグリバイオ用照明

大学や研究向けに独自開発の植物育成用LED照明を提案すると同時に、最適な光環境の提案も行っております。



株主の皆様へ

To Our Shareholders

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。当期は当社グループにとりまして、転機の一年となりました。

本年2月、創業者でもあった前社長の米田賢治氏が急な病のために退任したことを受け、私、各務嘉郎が当社社長に就任いたしました。3月にはLED照明事業の新規事業分野において、競争激化により採算が見込めない消費者向けの製品開発を中止し、また、4月には毎期大きな損失を生んでいた植物育成プラント事業を廃止し、連結子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーを清算することを決定しました。

不採算事業からの撤退により、分散していた経営資源を収益の柱であるLED照明事業に集中させる一方で、生産性倍増と経費削減に取り組みました。

この結果、売上高は5,296百万円(前年同期比0.3%減)、営業利益は269百万円(同18.3%増)、経常利益は211百万円(同18.3%増)となりましたが、子会社の清算に伴う特別損失発生のため、当期純損失は115百万円(前年同期は89百万円の純利益)となりました。

当社グループは、一丸となって皆様のご期待に沿うべく事業に取り組んでまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社是 お客様に愛と感謝

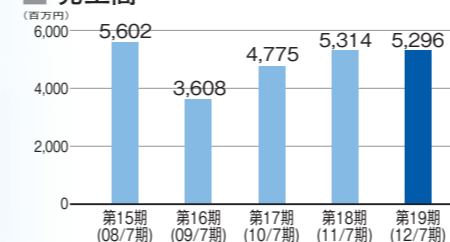
企業理念 光を科学し、社会に貢献する



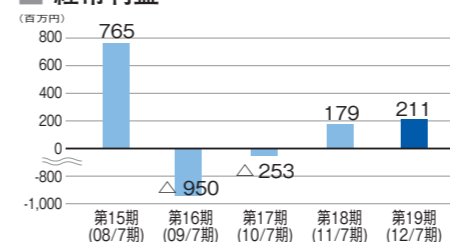
代表執行役社長
各務 嘉郎

財務ハイライト

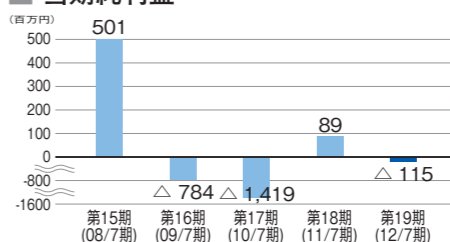
売上高



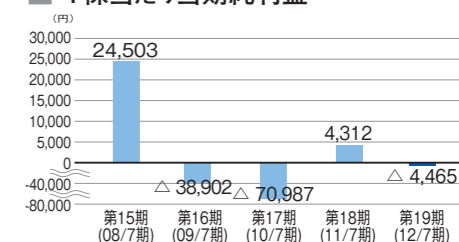
経常利益



当期純利益



1株当たり当期純利益



Top Interview

「変革と挑戦」を合言葉に“新生CCS”は力強く躍進し続けます。

Q1 直近の2012年7月期（第19期）を振り返って概況をお話してください。

A 改めて社内一丸となって目標に向かって邁進すると同時に、集中と選択を進める

私は2008年に米田前社長から乞われて技術開発部門の責任者として当社へ入社し、前社長の病気退任に伴い、本年2月に社長に就任いたしました。ちょうど上半期を過ぎた時点での突然の社長交代に、お客様や取引先様、加えて社内に動揺があったことは確かですが、前社長の掲げた高い志を引き継ぎ、さらに発展させるべく、改めて社内一丸となって目標に向かって邁進するとともに、足下の課題を冷静に見つめその対応を

着実に進めた一年だったと総括できると思います。

セグメント別では、国内の工業用照明分野は、景気による変動を受けにくい三品業界（食品・薬品・化粧品業界）向けや、急速に普及しつつあるスマートフォン、タブレット端末向けを中心に、売上は堅調に推移しました。また、ラベル・シールのインク硬化、パネルの接着用途に利用されるUV（紫外）照射器において、これまでの営業活動が実り、受注は好調に推移しました。

海外向け工業用照明分野では、欧州において、欧州財政債務問題の深刻化やユーロ安の影響により、売上は前期に比べ減少しましたが、北米では、ドル安の影響は受けたものの、主要顧客との関係強化および営業強化が実を結び、売上は好調に推移しました。また、アジアでは、新興国経済の成長率鈍化による設備投資抑制の影響を受け、売上は前期に比べ減少しました。

新規事業分野では、「自然光LED」を活用した美術館・博物館用照明が山口県立美術館に採用されたことは、大きなトピックスです。また、工業用照明分野で培ってきた技術を応用した医療用LED照明の製品開発を行い、この分野に本格参入しました。

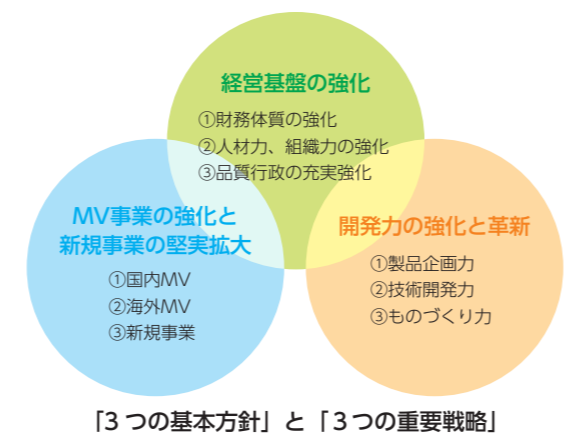
一方で、計画通りの進捗を得られず、大きな赤字をつくらせていた植物育成プラント事業は、2012年4月末をもって撤退いたしました。また、競争が激しく黒字化が見込めないコンシューマー向けLED照明の開発・販売も中止し、事業の「選択と集中」を進めた一年でした。

Q2 中期経営計画の見直しと今期2013年7月期（第20期）の計画についてお聞かせください。

A “新生CCS”として、企業文化の再生と事業基盤の確立に取り組む

不採算事業からの撤退により、2010年に策定した中期経営計画は現実にはそぐわないものとなったため、足元の事業と当社の現状を見つめ直し、2013年7月期から3年間にわたる方針と戦略の策定を行いました。3つの基本方針として「経営基盤の強化」、「マシンビジョン（MV）事業の強化と新規事業の堅実拡大」、「開発力の強化と革新」を掲げ、“新生CCS”として継続的な成長に取り組んでいきます。

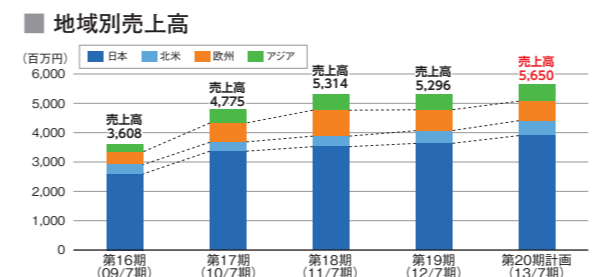
具体的な事業戦略の一つ目は、国内MV事業における「断トツトップシェア奪回」です。主力事業であるMV事業の市場シェアが低下して50%を割った現状を



直視し、この3年間で50%超の断トツトップシェア奪回を目指していきます。

二つ目は、海外MV事業における「全地域トップシェア奪取」です。現地企業との業務提携を積極的に推進し、海外ニーズに合った製品投入を行い、全地域トップシェアを目指します。そのためには、顧客の開発現場に密着した営業活動が必要であると考えており、営業と開発双方の当事者が組織的・日常的に情報交換しあう、「現場ニーズをすくい上げる体制」をグローバルベースで構築いたします。特にアジアをはじめとする海外では、「省機能・低価格・中品質・中性能」といった現地のニーズに対応した製品開発により、競争に勝っていきたくて考えています。

三つ目は、新規事業に関して、堅実な継続的投資をして、2～3年後に確実に利益貢献できるビジネスユニットを複数つくることです。医療用照明分野、「自然光LED」で当社が先行し、かつ大手と競合しない美術館・博物館用照明分野、さらには、多様な他社製品に必須の部品として当社デバイスを提供するモジュールビジネスなども含めて、「勝てるフィールド」を増やし



ていくことに力を注いでいきます。

また、成長のための研究開発や設備投資は継続して行い、人材面では企業文化の再構築、企業DNAの継承という観点から、新卒採用を重視していきたくて考えています。

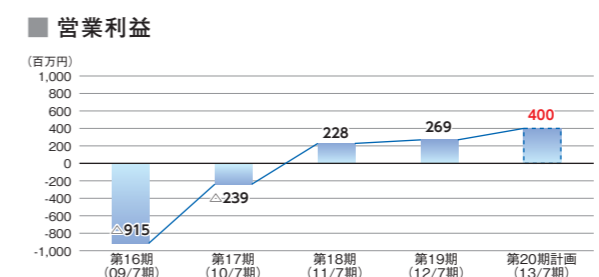
“新生CCS”として、2013年7月期の年間スローガン『変革と挑戦』を掲げ、全社一丸となって計画実現に取り組んでまいります。

以上のような施策の推進によって、2013年7月期の連結業績については、売上高5,650百万円、営業利益400百万円、経常利益350百万円、当期純利益350百万円を見込んでいます。

Q3 今後の製品開発に際して重視する点はどんなことですか？

A 新規事業成功のカギ：執念と理解者

私は当社入社以前、長年にわたりパナソニック電工株式会社で技術開発を担当していました。そこでの成功事例の調査結果から明らかになったのは、新規製



品・事業の成功の陰には、必ず「一人の執念をもった開発者」と「それを見守る経営陣内の理解者」がいたことでした。そして、成功までには、平均で8年という歳月を要しました。ですから、1年、2年経ってうまくいなくても、信念があるかぎり「やめない」ことが重要です。もちろん収益の観点から継続するか否かを判断する基準は設定しますが、新規事業を成功させるには、このような信念と忍耐が必要であることは確かです。株主様をはじめとする皆様には、ぜひこの点をご理解いただきたいと思います。

Q4 最後に、抱負と株主様へのメッセージをお願いします。

A 企業文化の再構築と業績の向上に邁進

米田前社長は起業家として大きな夢を掲げ、強力なリーダーシップで当社をここまで成長させてきました。私は創業者が掲げた社是や企業理念をそのまま継承しながらも、現在の経済環境や市場環境に沿った経営理念の再構築を行い、力強く揺るぎない会社風土をつくるのが重要な責務であると考えています。また、前述のように技術開発者としての信念とのバランスを取りつつも、経営者として、利益を重視し、「数字にこだわる」、「結果にこだわる」経営を進めていきます。

新社長として、以上のような施策を推進していくことで、当社グループの企業文化の再構築と業績の向上に邁進してまいりますので、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



シーシーエスの超高演色 「自然光LED」

当社が開発しました超高演色*1「自然光LED」照明が、
山口県立美術館（山口県山口市亀山町）において、水墨画の雪舟および
雲谷派の展示用照明として採用されました。



展示ケース内

美術品にやさしい光で時の変化を表現

2012年4月26日の山口県立美術館のリニューアルに際し、同館の最重要コレクションである雪舟、雲谷派の展示（展示室C）に当社の「自然光LED」照明が採用されました。

この照明には、こまやかな光の色味*2の変化を実現するプログラムが組みこまれております。透き通った昼の光から温かみのある朝夕の光へ照明の色味がゆっくりと変化することで、作品の様子も変わります。

当社の「自然光LED」は、太陽光に近い自然な光のため、作品がもつ本来の色をきれいに照らし出します。どれだけ太陽光に近いかを表す平均演色評価数は、Ra95以上（最高はRa=100となります）です。光の色味が変化してもRa95以上を保つことができるのは、当社独自の技術によるものであり、この点を高く評価いただいています。

山口県立美術館の展示室Cには、畳二十四畳敷きの座敷が用意されています。太陽の光やろうそくの光しかなかった時代に、どのように

作品が鑑賞されていたのか、畳に座りながらタイムスリップしたような気持ちで鑑賞いただけます。

シーシーエスは、太陽光に近い自然な光を生み出す「自然光LED」の特性を活かした製品の普及に努め、皆様に喜んでいただける「光」の提案を進めてまいります。

*1：ライトなどの光源がモノを照らしたときに、モノの色の見え方に影響を及ぼすことを「演色」といい、光源のそうした性質を「演色性」といいます。一般的に「演色性の良い光源」とは、対象物の色合いを変えずに照らし出す光源のことをいいます。

*2：今回採用となった照明の相関色温度は3,000K～5,000Kです。相関色温度（K：ケルビン）とは、一般的に白色光源と呼ばれる光源からの光の色味を表す単位で、数値が高いものほど青白みを帯びた光色、数値の低いものほど赤みを帯びた光色となります（朝夕の光は3,000K～4,000K程度、昼の光は5,000K～8,000K程度です）。

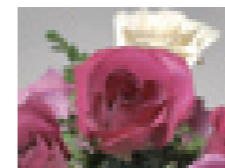


シーシーエスの「自然光LED」とは

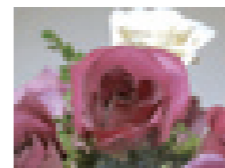
太陽光に近い自然な光でモノがもつ本来の色を忠実に再現することができるLEDで、平均演色評価数はLED業界最高水準となるRa98を達成しました。

「自然光LED」は紫色から赤色まですべての可視光の波長を含んでおり、太陽光のように各波長が連続した（突出したピークや凹みが少ない）分光分布となっています。そのため、モノがもつ本来の色を忠実に再現できます。

*演色性のイメージの違い



「自然光LED」の場合

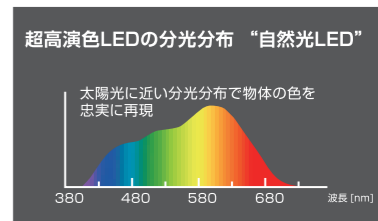
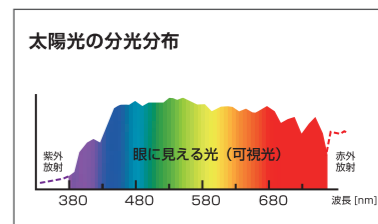
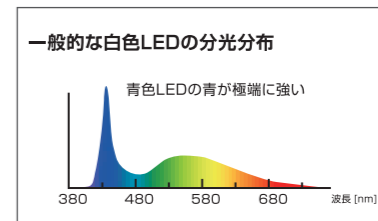


従来の白色LEDの場合

演色性のイメージの違いは印刷物ですので、実際の色と若干異なる場合があります。

分光分布について

光源の種類によって、モノの見え方が異なってきます。これは光源によって分光分布（波長の強さの分布）が違うからです。分光分布を見ると、太陽光では連続した分光分布でフラットになっていますが、LED光源では、強い波長と弱い波長がそれぞれ異なることがわかります。そのため、照らされたモノの色も違って見えます。



美術館・博物館用照明への取り組み

美術館・博物館用照明は、ハロゲン光源が最も多く使われています。ハロゲン光源は、演色性が高く（Ra100）、作品がもつ本来の色の再現性に優れていますが、寿命の短さや調光による色の変化等の問題を抱えているため、近年、文化財等の展示用照明としてLEDが普及し始めています。

しかし、ハロゲン光源からLEDに置き換える際、展示品に対して予期せぬ損傷を与える懸念がありました。それは、従来のLEDとハロゲン光源の分光分布が異なっているためです。シーシーエスは、美術館・博物館用に「自然光LED」をハロゲン光源と同等の分光分布になるように独自の技術で調整しているため、分光分布の違いによる損傷の心配はありません。

シーシーエスの「自然光LED」は、美術館・博物館用照明として求められる演色性の高さに加え、分光分布の調整や紫外線・赤外線のカットなど、光による展示品の損傷をできるかぎり抑えるよう、さまざまな工夫がされています。

シーシーエスは、美術館・博物館向けに標準製品のラインアップを拡充させ、さらに最適な「自然光LED」による提案を進めてまいります。

MUSEUM COB SPOT LIGHT

「自然光LED」を光源とする超高演色LEDスポットライト「MUSEUM COB SPOT LIGHT」を2012年8月に発売いたしました。本製品は、これまでのお客様のニーズを集約し、初めて美術館・博物館用照明として標準化した製品です。



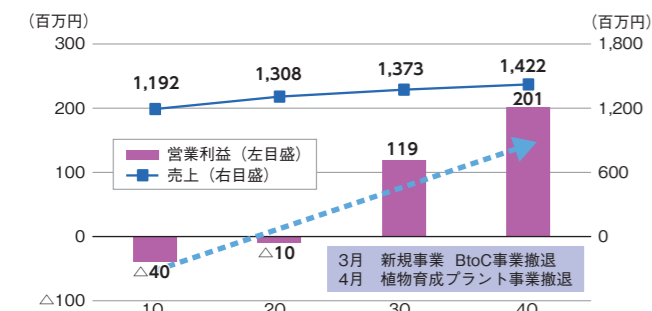
「MUSEUM COB SPOT LIGHT」は、発光部をひとつにまとめたワンコアタイプのスポットLED照明です。そのため均一な光でマルチシャドー（多重影）を起こしません。さらに、当社の独自の光学系設計により配光ムラ、色ムラがなく美しくやさしい光を実現。0～100%まで調光可能で、繊細で効果的な演出ができます。

Consolidated Financial Highlights

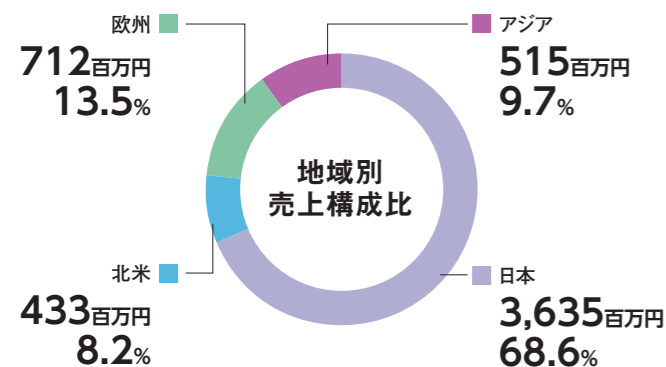
決算のキーポイント

- 工業用照明分野は堅調に推移、為替の影響の一方で経費削減に努めました。
- 新規事業分野は消費者向け事業から撤退し、事業構造改善費用36百万円を特別損失に計上いたしました。
- 植物育成プラント事業から完全撤退し、株式会社フェアリープラントテクノロジーの特別清算を進めています。売却予定の固定資産の減損処理などにより、関係会社整理損346百万円を特別損失に計上いたしました。

2012年7月期 売上・営業利益推移



地域別売上構成比



LED照明事業

工業用照明分野

国内におきましては、スマートフォンやタブレットPC向けおよび景気による変動を受けにくい三品業界(食品・薬品・化粧品業界)向けを中心に売上は堅調に推移しました。また、新しい製品領域であるラインセンサ用LED照明やラベル・シールのインク硬化、パネルの接着用途等に利用されるUV(紫外)照射器において、これまでの営業活動により新規顧客開拓へとつながり、受注は好調に推移しました。

海外におきましては、欧州では、欧州の財政債務問題の深刻化やユーロ安の影響により売上高は前年同期に比べ減少しました。北米では、積極的な勉強会開催など顧客への関係強化が実を結び、売上は好調に推移しました。アジアでは、新興国の成長率の鈍化、特に液晶関連の設備投資抑制の影響を受け、売上は前年同期に比べ減少しました。

新規事業分野(美術館・博物館用照明分野、メディカル用照明分野、その他)

美術館・博物館用照明分野では、山口県立美術館の展示室に採用されるなど「自然光LED」の強みを活かした製品開発、営業活動が実を結び、売上は堅調に推移しました。メディカル用照明分野では、これまで工業用照明分野で培ってきた技術を応用し、医療用LED照明の製品開発を完了、メディカル用照明分野に本格参入いたしました。

植物育成プラント事業

植物育成プラント事業におきましては、ミニベジプラントの拡販や福井工場における受託生産活動が計画通りに進まなかったことから、2012年4月末をもって植物育成プラント事業から撤退し、2012年7月に連結子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーを解散いたしました。なお、同社は現在特別清算を進めています。

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期 (2012年7月31日現在)	前期 (2011年7月31日現在)
【資産の部】		
流動資産	3,941	4,281
固定資産	1,553	1,897
有形固定資産	1,400	1,704
無形固定資産	56	65
投資その他の資産	95	127
資産合計	5,494	6,179
【負債の部】		
流動負債	2,146	2,956
固定負債	1,447	1,126
負債合計	3,593	4,082
【純資産の部】		
株主資本	2,069	2,224
資本金	462	461
資本剰余金	1,514	1,513
利益剰余金	93	249
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△169	△127
その他の包括利益累計額合計	△169	△127
純資産合計	1,900	2,097
負債純資産合計	5,494	6,179

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2011年8月1日から 2012年7月31日まで)	前期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)
売上高	5,296	5,314
売上原価	2,216	2,122
売上総利益	3,080	3,191
販売費及び一般管理費	2,810	2,963
営業利益	269	228
営業外収益	35	81
営業外費用	93	130
経常利益	211	179
特別利益	-	30
特別損失	383	14
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△171	194
法人税、住民税及び事業税	32	65
法人税等調整額	△88	40
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△115	89
当期純利益又は当期純損失(△)	△115	89

連結包括利益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2011年8月1日から 2012年7月31日まで)	前期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△115	89
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△42	△14
その他の包括利益合計	△42	△14
包括利益 (内訳)	△157	74
親会社株主に係る包括利益	△157	74

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2011年8月1日から 2012年7月31日まで)	前期 (2010年8月1日から 2011年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6	240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△109	△71
財務活動によるキャッシュ・フロー	△415	846
現金及び現金同等物に係る換算差額	△25	△8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△556	1,007
現金及び現金同等物の期首残高	1,722	714
現金及び現金同等物の期末残高	1,165	1,722

連結株主資本等変動計算書 当期(2011年8月1日から2012年7月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本			株主資本 合計	その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額 合計	
2011年8月1日残高	461	1,513	249	2,224	△127	△127	2,097
事業年度中の変動額							
新株の発行	0	0		1			1
剰余金の配当			△41	△41			△41
当期純損失(△)			△115	△115			△115
株主資本以外の項目の事業年度 中の変動額(純額)					△42	△42	△42
事業年度中の変動額合計	0	0	△156	△154	△42	△42	△196
2012年7月31日残高	462	1,514	93	2,069	△169	△169	1,900

※百万円未満を切り捨てています。

ポイント1 連結貸借対照表

純資産は、1,900百万円(前連結会計年度末2,097百万円)となりました。これは主に、当期純損失115百万円、配当金の支払40百万円により利益剰余金156百万円の減少等によるものであります。

ポイント2 連結損益計算書

経費削減により、営業利益、経常利益ともに前期より増加しましたが、特別損失383百万円の計上により当期純損失は115百万円となりました。

ポイント3 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動の結果支出した資金は6百万円、投資活動の結果支出した資金は109百万円、財務活動の結果支出した資金は415百万円となりました。この結果、現金及び現金同等物の期末残高は1,165百万円となりました。

ポイント4 連結株主資本等変動計算書

当期純損失115百万円の計上等により、株主資本は154百万円減少し、純資産は1,900百万円となりました。

Topics

展示会出展情報

「国際画像機器展 2011」

会期：2011年12月7日～9日
会場：パシフィコ横浜

製造現場で利用される最新の画像処理技術、アプリケーションを一堂に集めて開催される展示会「国際画像機器展 2011」に出展しました。エリアセンサ用照明ブースとラインセンサ用照明ブースを設置。お客様と一緒に製作したカスタム製品を中心に展示を行いました。また、参考出展しましたスリット光LED照明「LSシリーズ」は好評をいただき、2012年7月に標準製品として発売いたしました。



「Vision 2011」

会期：2011年11月8日～10日
会場：シュトゥットガルト・トレード・フェア・センター（ドイツ・シュトゥットガルト）

ドイツ・シュトゥットガルトで開催される世界最大の画像機器展「Vision 2011」に今年も出展しました。新製品をはじめ、欧米での市場ニーズのある防塵防水仕様（IP仕様）の照明を参考出展し、今後海外におけるニーズの発掘を積極的に進めてまいります。

「第22回 ファインテックジャパン」

会期：2012年4月11日～13日
会場：東京ビッグサイト

FPD業界世界最大「ファインテックジャパン」に出展しました。同展示会では、フィルムの検査などに最適なラインセンサ用LED照明を展示しました。また、検査工程だけでなく、紫外硬化を利用した製造工程で使用される高出力「UV-LED（紫外光）照射器」も同時出展し、新規顧客開拓へとつながりました。



新製品情報

2011年9月発売

LNSPシリーズ



2011年9月発売

PSB3-30024



フィルムや液晶ガラス等の画像処理検査の際に使用されるラインセンサ用LED照明の新シリーズ「LNSPシリーズ」、ラインセンサ用LED照明専用のアナログ電源「PSB3-30024」を開発し同時発売いたしました。ラインセンサ用LED照明を使用する現場では、年々製造現場の検査処理スピードが高速化しており、それに対応するための明るさが求められています。そうした要望に応えるべく、「LNSPシリーズ」は当社独自の設計により自然空冷タイプでは明るさ業界最高クラス（40万ルクス）を実現しました。また、ラインセンサ用LED照明専用アナログ電源「PSB3-30024」は、従来シリーズよりも外部制御機能を充実させ、1台で3タイプの外部制御方式を搭載しました。



2011年8月発売

Cool Spot LED

当社開発の「自然光LED」を光源とするLEDスポットライトをウシオライティング株式会社と共同開発し、「Cool Spot LED」として、ウシオライティング株式会社から発売されました。

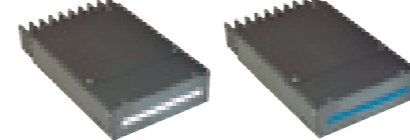
“自然光LED”は太陽の下での自然の光に非常に近い特性があり、人の肌・衣服・花等の本来の色を忠実に再現することができます。そのため、“自然光LED”を採用した「Cool Spot LED」は、対象物の実際の色を忠実に再現し、美しく照らすことができます。また、光に熱が少ないLEDの特性を活かし、天井の高いホールや小規模宴会場では照明による温度上昇を抑えられ、省エネにも有効です。



2012年7月発売

LSシリーズ

LED照明では業界初となる極めて細い1.2mm幅のスリット光を照射する画像処理用スリット光LED照明「LSシリーズ」を開発し、発売いたしました。「LSシリーズ」は当社独自の光学系技術によりLED照明業界では最も細い1.2mm幅の照射を可能にする照明の開発に成功し、レーザー光に近い光を実現しています。近年、画像処理業界では三次元測定が普及し始めています。三次元測定は赤・緑のレーザー光が主流ですが、スペckルノイズ*や安全性等が課題となっています。LEDはスペckルノイズを発生させず、また安全性が高く、光源色も豊富なため、作業者への負担が軽く、検査に適した波長を選べるという優位性があります。*スペckルノイズ（speckle noise）=レーザー光照射時に拡散した光同士が干渉し画像のちらつきが発生すること。



Corporate Information

■ 会社概要（2012.7.31 現在）

本社所在地 〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル
桜鶴岡町374番地
TEL. 075-415-8280（代表）
FAX. 075-415-8281（代表）

設立 1993年10月6日
資本金 462,150千円
従業員数 206名（連結）180名（単体）
取引銀行 みずほ銀行・日本政策投資銀行・
滋賀銀行・京都銀行

事業内容 ● 画像処理用LED照明装置
および制御装置の開発、製造、販売
● 顕微鏡光源用、
植物育成用、医療用、
美術館・博物館用、
その他LED応用照明の開発、製造、販売

事業所 生産センター、光技術研究所、
東京営業所、名古屋営業所、
仙台テストグループ、上海駐在員事務所、
深圳駐在員事務所

関連会社 CCS America, Inc.
CCS Asia PTE. LTD.
CCS Europe N.V.
CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT. LTD.

■ 役員（2012.8.1 現在）

取締役兼代表執行役社長 各務 嘉郎 執行役員 石井 博規
取締役兼代表執行役専務 松室 伸二 執行役員 大西 浩之
取締役（社外）安居幸一郎 執行役員 上田 隆彦
取締役（社外）中河 光雄 執行役員 青山 茂
取締役（社外）酒見 康史 執行役員 梶 紀公
取締役（社外）岩本 朗

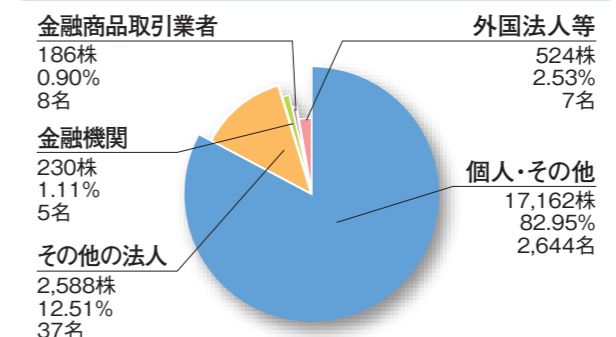
■ 株式の状況（2012.7.31 現在）

発行可能株式総数 65,103株
（内訳）普通株式 60,000株
A種優先株式 5,103株
発行済株式の総数 25,793株
（内訳）普通株式 20,690株
A種優先株式 5,103株
売買単位 1株
株主数 2,701名
（内訳）普通株式 2,701名
A種優先株式 4名

■ 大株主の状況（普通株式）（2012.7.31 現在）

株主名	株式数	所有株式数の割合
1 米田賢治	6,670	32.2%
2 三菱化学株式会社	1,276	6.2%
3 株式会社サン・クロレラ	580	2.8%
3 サン・クロレラ販売株式会社	580	2.8%
5 プレザント・パレー	286	1.4%
6 シーシーエス従業員持株会	282	1.4%
7 大賀昭司	187	0.9%
8 原田熊太	182	0.9%
9 安井由美子	180	0.9%
10 ヒルクレスト・エルピー	172	0.8%

■ 株主構成（普通株式）（2012.7.31 現在）



株主メモ

事業年度 毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会 毎年10月
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
TEL ☎ 0120-094-777（通話料無料）
公告方法 電子公告
公告掲載 URL
<http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html>
（事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載を行います。）
基準日 期末配当金 毎年7月31日
中間配当金の支払いを行うときは
毎年1月31日
上場証券取引所 大阪証券取引所 JASDAQ市場
証券コード 6669

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分で分かるCCS」をご覧ください。「IR情報」では、財務ハイライトやニュースリリース、説明会の動画などを随時更新しています。

ぜひご覧になり、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



トップページ

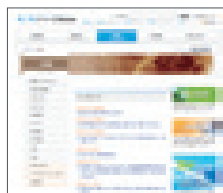
「IR情報」の入り口はこちらです。

3分で分かるCCS

入り口はこちらです。

IR情報ページ

最新の情報が見やすくなっています。



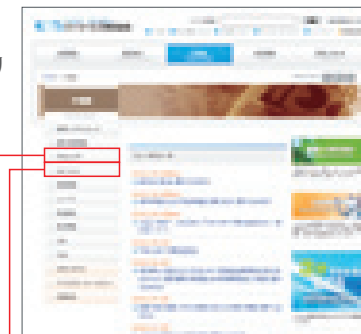
<http://www.ccs-inc.co.jp/>

お知らせ

個人投資家説明会を下記日程にて開催予定です。

日時：2012年11月17日(土)
受付開始 13:00より
会場：東京

日時：2012年12月1日(土)
受付開始 13:00より
会場：大阪



IRカレンダー

今後の予定はこちらです。

IRイベント

過去に行われたイベントの動画・詳細はこちらです。

詳細の情報は下記WEBサイトよりご確認ください。
お申し込みも、同WEBサイトにて受け付けております。

「ブリッジサロン サロン開催案内」

<http://www.bridge-salon.jp/>

(お電話でのお申し込みは 主催・株式会社インベストメントブリッジ TEL：03-5842-5765 までお問合せください)

また、当社のWEBサイトIRカレンダーページからもご確認ください。

http://www.ccs-inc.co.jp/s3_ir/s_03.html

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

「賢者.tv」に出演します。

アジア最大級の社長動画サイト「賢者.tv」に当社代表執行役社長 各務 嘉郎が出演予定です。各務自身の言葉で、肉声を通して経営哲学、将来の日本を背負う若者へのメッセージをお伝えします。



配信予定日：2012年11月1日(木)～

当社WEBサイト トップページに右記バナーを掲載予定ですので、そちらよりご視聴いただけます。

シーシーエスWEBサイト

<http://www.ccs-inc.co.jp/index.html>

賢者.tv WEBサイト

<http://www.kenja.tv>

*IRに関するお問合せはIR担当までご連絡ください。
TEL：075-415-8291 E-mail：koho@ccs-inc.co.jp



シーシーエス株式会社

〒602-8011
京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴岡町374番地
TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)

未来が変わる。日本が変わる。



環境に配慮し、大豆油インキとFSC認証紙を使用しております。

■ 免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。